



第16号

発行  
成相山成相寺

京都府宮津市宇成相寺339

TEL0772-27-0018

http://www.nariai.jp/

「正しい」と言いつつ

のどかな陽気の日が続きます。成相寺世話人皆様方におかれましてはいかがお過ごしですか。お伺い申し上げます。何時もお心に掛けて頂き何かとお世話に成り有難う御座います。

先日とても残念なニュース映像を見ました。イスラム過激派組織による遺跡の破壊です。約三千年前の古代遺跡を重機で破壊し博物館に収蔵された石像もハンマーで粉砕するなど貴重な歴史的文化財が次々に破壊されてしまいました。彼らの教義では「偶像崇拜」は戒律に反する行いで「偶像」と言うのはそもそも人間が作った物であり「神」そのものではないと無いとすることだそう



です。次々とハンマーで碎かれ壊される沢山の像やレリーフを見て、今、そんな必要があるのかと怒りを覚ええました。

しかしながら、これらの行為はイスラム過激派に限らず、古今東西の聖戦と呼ばれる戦いでは何時も行われて来た事なのです。日本でも明治の「廃仏毀釈」では寺院が丸ごと消えて無くなった。石仏が壊され仏像の首が手折られています。明治政府は神道を国家統合の基幹にしようとし、仏教は外来の宗教であるとして仏教勢力の財産や地位を剥奪したのでした。成相寺もその頃の記録が一切残っておりません。しかしながら、人々の信仰がお寺を救い仏像を救い、遠く飛鳥時代から始まり現在に繋がる仏教信仰を守ってきたのです。勝てば官軍と言われますが、自分達の信じる事柄と相反すると言う理由で、仏像や遺跡を破壊する行為は正しいことなのかと考えさせられます。

「正しい」とこれはとても難しい事です。私は正しいと思っても、物の見方を変えると、価値観の違うあなたには正しくないことと成ってしまいます。日常生活の中でも近所付き合い合いの中でも沢山出てきます。目玉焼きにソースか醤油か位の争いならと思いますが、そこに「正しさ」を求めると取捨がつかなくなりそうです。

仏陀の基本的な教えに四つの聖なる真理というのがあります。「苦」「集」「滅」「道」ですが、今回はこの「道」に当たる部分の実践法である「八正道」(はっしよ

うどう)についてお話ししたいと思います。

仏陀は「苦」を滅する方法として八つの正しい道を解き明かされました。正見・正思・正語・正行・正命・正精進・正念・正定の八つの方法です。解りやすく申しますと「自分自身の都合や我が儘にとらわれない。不平不満を募らせて苦の元を作らない。平等な立場で調和のとれた物の見方をする。それらが出来る人になるよう修行しましょう」と言う様な教えなのですが、しかし、まだ難しいですね。ふっと、思い出したのが、長男が小学校の時に音読で大きな声で読んでいた金子みすずさんの「みんな違って、みんないい」この言葉が一番近いのではないかと思います。とても意味深い言葉です。



良いか悪いかは別として、遺跡を壊したイスラムの人達にはその行為は正しい事はずです。我々仏教徒とは違っているのだから「みんな違って」いいのです。そこで必要と成ってくる

のが「みんないい」と認める事が出来るかです。我々の生活との違いを想像する、思いやる、思いやりの気持ちを作り出すのが「みんないい」と、認める気持ちだと思ふのです。

難しい世の中の政治や権利や経済の思惑の中で、振り回され傷つき苦しんでいる、色んな国の人の事を批判し怒りを募らせるだけでなく、思いやり理解しようと思ふ、そして「みんな違って、みんないい」と心から言える。それが仏陀の教えの「八正道」に繋がっていくのだらうと思ひます。それが普通の正しさへ導いてくれるのではと考えます。

しかしながら大切な文化遺跡を壊されたり、空爆で大勢の方が亡くなり傷つき、苦しんで居るのだから、そんなに簡単に「みんないい」とはならないし、私自身もそんなに簡単に「みんないい」とは言えないです。

それでも、今我々に出来る事。たとえば身近で喧嘩をしている相手の事を思いやる事。意見の食い違いと成る正しさの違いを想像し思いやる事。醤油の代わりにソースで目玉焼きを食べてみて相手の気持ちや子供の頃からの習慣や生活を思いやる事。これくらいなら出来るかも知れません。皆様の身近にもきつとあると思ひます。違うからこそ喧嘩になつてしまふ事。「みんなちがって」を見つけて「みんないい」を増やす努力を積み重ねて下さい。それが次に続いていくのだと思ひます。

今年暑さ厳しくなりそうです。皆様くれぐれもご自愛下さいませ。

南無観世音菩薩

合掌

山主 弘真